

秋の旅行会「往年の炭都、夕張を巡る旅」

10月25日（土）に本年度の秋の旅行会「往年の炭都、夕張を巡る旅」を会員、ご家族を含む23名の参加で実施しました。当日は、晩秋の穏やかな日差しの中、奥様方と子供さんを交え、和気あいあいの楽しい1日を過ごすことができました。

朝9時半に札幌駅に集合。貸切バスで一路夕張をめざし、11時過ぎに新夕張駅に到着しました。ここからお約束のローカル線の旅で、夕張支線に乗車。我々の他には、マニアらしき旅行者が数名と、地元の方数名で、皆さん突然の団体客に驚いた様子でした。

ワンマン気動車に揺られること30分、夕張駅に到着、初めての方は駅前のホテル、マウントレースイに驚いていましたが、ご婦人たちは駅に併設された売店で土産物を物色、バスに乗り替えて「夕張鹿鳴館」に向かいました。



「夕張鹿鳴館」は、北海道炭鉱汽船株式会社（北炭）が全盛を究めた時代、北炭鹿の谷倶楽部として大正2年に建設され、昭和58年まで主に当時の迎賓館のような施設として使用されていました。建物は当時の技術の粋を集めた、北海道では珍しい本格的和風建築で、内部は和室洋室が組み合わせられ、その装飾や調度品は贅を尽くしたもので、参加者一同大いに感心させられました。ここで往時の夕張の繁栄ぶりをしのびながらの昼食会、恒例の参加メンバー自己紹介が行われ、懇親を深めました。

昼食の後、「石炭の歴史村」に移動し、ガイドさんの案内で石炭博物館を見学しました。まずはエレベーターに乗って地下1,000m?（という設定）の坑道体験。ライト付きのヘルメットをかぶって、当時の採炭作業や炭鉱での暮らしを体験し、過酷な労働とその中で生きる人々のたくましさを感じました。

帰路は途中の栗山町で「小林酒造」に立ち寄り、酒蔵の見学と試飲を楽しみ、それぞれ好みの酒瓶を買い込んで家路につきました。

2年ぶりの旅行会となりましたが、まだちらほらと紅葉が残る晩秋の夕張を、往時の
繁栄をしのびつつ、会員・家族の懇親を深める良い一日を過ごすことができました。
ご参加いただいた会員、ご家族の皆様には感謝します。

(文責・小山)

